

誠晴會 だより

Medical corporation SEISEIKAI
Public information magazine

10 月
秋号
Oct. 2021
No.20

■ふきあげ納富病院理念■

1. 温かみのある誠実な医療提供を通じて、地域医療の推進に貢献いたします。
2. 泌尿器疾患、腎臓疾患に関する専門性をより追求します。

■ふるさとの森理念■

1. 温かみのある誠実な看護と介護を通じて、地域介護の推進に貢献し、一日も早い在宅復帰を目指します。
2. ご利用者とそのご家族、私達とのチーム全体による目的意識を持ったリハビリテーションを中心とする残存機能維持、向上を目的とする医療ケアを目指します。
3. ご利用者の人間らしさと豊かな人生に寄与し、新しい生き方のサポートを致します。
4. 生きがいのある生活空間と生涯教育の場を提供します。

SEISEIKAI INFORMATION MAGAZINE



10月 秋号
2021.NO.20

- | | |
|-----------------|----------------------------|
| 01.目次 | 13.新人研修 |
| 02.朝長医院理事長ご寄稿 | 15.わいわいクラブ
リニューアルオープン |
| 03.理事長寄稿 | 17.ブレイズ株式会社 BOCAサッカー |
| 06.吉村先生ご紹介 | 19.わいわいクラブ活動日記 |
| 07.学会報告 | 21.新人紹介 |
| 09.ふるさとの森「研修報告」 | 22.豪雨被害に対するボランティアに
について |
| 11.老健イベント | |
| 12.レシピ紹介 | |

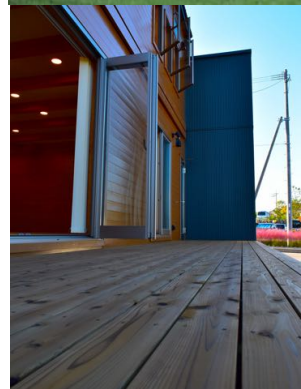
CONTRIBUTION

朝長医院 朝長弘道理事長ご寄稿…「往診二題」

理事長寄稿 納富貴嗣… 「医療バッシングとメディア」
内田樹先生のお考え紹介

TOPICS

- ・吉村先生ご紹介
- ・ふきあげ納富病院「学会報告」
第120回日本皮膚科学会総会
- ・ふるさとの森「研修報告」
コロナ禍での認知症ケアの現状と課題とは
- ・ふるさとの森
「敬老祝賀会」
- ・レシピ紹介
「ハロウィンレシピ3種」
- ・誠晴會新人研修 ～フォレストアドベンチャー～
in 吉野ヶ里
- ・BOCAサマークリニック&セレクション2021
- ・わいわいクラブ活動日記（7～9月）
- ・新人紹介
- ・豪雨被害に対するボランティアについて



「往診二題」

朝長医院理事長 朝長 弘道

【その一】

九十歳Yさん（男性）に往診の依頼があった。体を痛がり元気がないと。多分七、八年前にYさんを診たきり、それからは会ってないような気がする。

自宅は深い山間の集落の中にある。そこを訪問するのは二、三十年ぶりではないだろうか。傾斜地に高い石垣を積みあげて造成した平地に身を寄せ合うように家が固つていた。

以前と変わらず曲がりくねった山道を昇りつめて集落に入った。高い石垣はそのままだったが、家はすっかり造りかえられていて、戸惑った。

当時、ほとんどの農家では屋敷の南部分は外庭（ほかにわ）と称する平地のまま、その奥に住い家があった。外庭は畝を拡げて天日に干す場所でもあり、農作業をするに必要な所でもある。庭に面した家の引き戸を開けるとすぐそこには固い土のままの土間で、一段上がって居間に続いていった。

ところが新しい家は外庭をつぶして敷地一杯に建てられ、立派な玄関がまぶしい。入って右側の南向きの明るい和室に大きな介護ベッドが置かれてYさんは力なく横たわっていた。半ば目を閉じ、表情貧しく、顔にはむくみが認められた。腰が折れ曲がりそうに前かがみで、小さくなったおばあさんがそばに控えていた。若

い、と言っても六十（歳）近くのお嫁さんが明るく声を上げながら応対してくれる。昔の面影のひとつかけらも残さず新しくなった家、そこに生きる老いて小さくなった夫婦を見て、時の流れを感じた。

呼びかけて、目を開け、うなずいたYさんをひと通り診察する。喘鳴が聴きとられ、全身にむくみが認められた。長い病苦と悩み、老いの悲しみが伝わってくる。手を握って昔のことなども話していたら笑顔が見られた。

診察が終わって玄関の外に出た。来るときは吠えなかった飼犬が、仕方なく役目を果たすかのように二、三回鳴いた。石垣の上から周りの集落を見渡した。思えばここに来る途中、誰とも出会わなかった。人の気配がない。以前は子供達のざわめきがどこでも感じられたのに・・・。

何もかも変わってしまったなあ、と思いながら向かいの山を見上げて、はっと気付いた。変わらない、山の様子はそのまま、遙か遠くに重なる山々の稜線もまざしく昔のままだった。

そう言えば、「万葉人が千年以上も前に見て、歌に残した奈良、明日香村の山々の姿は今もそのまま変わらない」と感慨深げに述べた文があったなあ。

【その二】

六十八歳のIさん（男）、昨日からの熱が下がらず食事も入らないと、往診を求められた。

Iさんは脳梗塞後遺症で体が不自由、家人の介助が必要である。

Iさん宅を訪問するのは初めてで、車一台が通るくらいの道幅の上り坂の途中、左側にあった。右側は三面コンクリートの側溝で音もなく水が流れてる。昔ならさだめし谷の小川で川底は粘土質の土、石が露出し深みもあって流れは一樣ではなく、水の音が聞かれただろう。そこには赤いさわがにがすんでいた、など考えながら家に向かった。

六畳ぐらいの和室にベッドを置き、Iさんはきつそうに休んでいた。その娘さんが応対してくれた。一通りの診察のあと、インフルエンザの反応を待ちながら同行の看護師さんが点滴注射の用意をしていた。そこに中学生くらいの男の子がのっそり入ってきた。しばらくしても無言のままつつ立っている。

たまりかねて私は孫みたいなお子を見上げながら言った。「ほれほれ、座って、今日は」（と、挨拶しなさい）。息子はなんと言われたかわからない風で、なんの反応も示さなかった。そばの母親が何か言ってくれるかと思いきや、その母親も無言だった。しばらく、宙を漂っていた私の言葉はそのまま消えてしまった。

治療を終え、さっきの道に戻った。もう居ないと思いつつも、赤いさわがにはどうしたかなあ、と昔の谷の小川を覗き込んだ。

Iさんの病状はよくなり、往診はその一回だけだった。



「院長の窓」

ふきあげ納富病院
理事長 納富貴嗣

医療バッシングとメディア

【内田樹先生のお考え紹介】

昨今のコロナ騒動で、医療従事者は「居心地が悪いほど」持ち上げられているような気がします。本来業務として「救急医療」や「救命医療」、あるいは「呼吸器感染症病棟」にご勤務されている医療スタッフは、称賛と労いを受けて当然でしょう。しかし、我々のような末端の「そのような分野とはかけ離れた職種の医療人は、オリンピック前の日本代表対スペイン代表の練習試合前に「医療従事者に対し感謝の拍手を！」とかされてしまうと、逆に後ろめたいになります。（ですよね、）」「すみません、我々はコロナから必死で逃げてるだけです（よ、）」「」と思ってしまう。（よ、）

ね、（）思い出せば、ほんの10年ほど前、医療従事者は「不当なバッシング」に耐え忍んでいたものでした。

※院内暴力とメディア2021ー08ー04

（内田樹の研究質より抜粋）

数年前にある大学の看護部で講演をしたことがある。

その時。ナースの方たちと話す機会があった。ナースステーションに「『患者様』と呼びましょう」という張り紙があったので、あれは何ですかと訊ねた

看護学部長が苦笑いして、「厚労省からのお達しです」と教えてくれた。

そして、「患者さま」という呼称を採用してから、院内の様子がいぶん変わりましたと言った。

何が変わったのですかと訊ねると、「医師や看護師に対して暴言を吐く患者が増えた、院内規則を破って飲酒喫煙無断外出する患者が増えた、入院費を払わないで退院する患者が増えた」と三点指折り数えて教えてくれた。

「患者さま」という呼称は「お客さま」の転用である。

医療も（教育と同じく）商取引モデルに再編されねばならないと、そのころの統治者たちが考えたのである（覚えておいでだろう。「小泉

竹中」のあのグローバリズムの時代の話である）。

患者は（消費者として）「最低の代価で、最高の医療サービスを要求する」ことを義務づけられる。その「ニーズ」に応えることのできない医療機関は遠からず「マーケット」から退場する。その結果、最高の費用対効果で、最良の医療サービスを提供する医療機関だけが「淘汰」^{とうた}を生き延び、日本の医療水準はますます高まる。だから、患者もまた医療機関に対して、できるだけ少ない代価で、最高のサービスを要求「すべき」なのだ。

最高のサービスを要求「すべき」なのだ。政治家たちはそう考えた。マスメディアもその尻馬に乗った。

その頃、私は医療における「賢い患者になるうキャンペーン」とか「インフォームド・コンセント」論といった「政治的に正しい医療論」に対して、「こんなことを続けたら、日本の医療は崩壊する」と繰り返し警告していた。

医療とはかわりのない素人の論であったが、医療メディアは私の主張を何度も取り上げてくれた。

だが、マスメディアから「医療に関する意見」を徴されたことは過去に一度もない。

それは私の意見がマスメディアの主張とまったくなじまないものだったからである。さすがに医療崩壊の事情を知るに連れて、最近ではメディアの医療バッシングの筆勢は衰えたが、それでも自分たちがこの現場の荒廃に「責任がある」という言葉は口にしらない。

たぶん、そう思ってもいないのだろう。

すでに何度も引用しているものだが、もう一度繰り返す。

土地、大気、土壌、水、森林、河川、海洋などの自然環境、道路、上下水道、公共交通機関、電力、通信施設などの社会的インフラストラクチャー、教育、医療、金融、司法、行政などの制度資本は、「社会的共通資本」と呼ばれる。それは、広い意味での人間の生きる「環境」を形成する。社会の土台である。

その要件は、軽々に変化してはならないということである。

「社会的共通資本は、それぞれの分野の職業的専門家によって、専門的知見にもとづき、職業的規律にしたがって、管理、運営されるもの

であるということである。社会的共通資本の管理、運営は決して、政府によって規定された基準ないしルール、あるいは市場的基準にしたがっておこなわれるものではない。(…)社会的共通資本の管理、運営は、フィデュシアリー(Fiduciary)の原則にもとづいて、信託されているからである。」(宇沢弘文、『社会的共通資本』、岩波新書、2000年、22頁)

メディアは「社会的共通資本」について、これがきわめて重要な概念であることを知りながら、決して論及しない。

メディアが「社会的共通資本」に算入されていないからである。

メディア知識人が「職業的専門家」にリストアップされていないからである。

メディアは人間が生きる環境としては「あっても、なくても、どちらでもいい」と宇沢先生が思っているから、メディアはこのような理説が存在すること自体を「無視する」のである。

そして、職業的専門家以外が容喙(ようかい)（ようかい）すべきではないとされた、あらゆる分野に手をつっ込み、それをあるときは「政治的正しい」

さ」にリンクし、あるときは「市場のニーズ」にリンクして、専門家によってさえコントロール不能なものにする。

人間の生きる環境そのものが人間のコントロールを離れた状態になること、それをメディアは無意識のうちに望んでいる。



「カオス」と「カタストロフ」に対する「抗
い難い欲望」がメディアを駆動している（それ
が大衆の最高の「ニーズ」であり、そのよう
な破局的状況においてメディアに対する市場の
需要は頂点に達するからである）。

混沌と破局を求めるのは、人間の本性の一部で
あるから、そのような欲望を「持つな」という
ことは誰にも言えない。

けれども、そのような欲望に駆動されてあるこ
とについて、メディアの当事者はもう少し自覚
的であってもいいのではないか。

以上、内田樹先生談。

そうなんです。メディアが「医療人は腐って
いて、」という「医療カオス」の実態を、真
実も誇張も、さらに嘘も含めて取り上げた。

「医療カタストロフが既にきている」という、
彼らの市場の需要を最大化する既成事実が出
来上がってしまった。そのあと大衆は、「医療
人へ対する不信任」を募らせていった。このよ
うにメディアの連中の「抗い難い欲望」にまん
まと乗せられ、「医療」を主人公にした「混沌
と破局の物語」を国民の多くが盲信し追隨した

のでした。医療費を下げる財務省の連中はほ
くそ笑み、板挟みの厚生労働省の連中はただた
だ殻に閉じこもった、小泉さんと竹中さん
は、自分のせいで医療人が追い込まれたなん
て、全く自覚すらしておらず、逆に「資本主義
のセオリーに倣い、だめな病院が潰れることが
正義だ!」と確信さえしていた、患者を「さ
ま呼ばわりしない病院」は潰れればいいのだ!
と。

確かに、「医療カオス」を地でいく医療人
は、確かにいます。そういう輩こそ率先し「患
者」を「さま」扱っていたように感じます。
でも、そんなやつ、本当に、ごくごく少数で
す。ほとんどの医療人はできることを真面目に
コツコツやっています。そういう普通の医療人
に対するお褒めの言葉は、「あの先生にかかっ
て良かったね」 「あの看護婦さん優しかった
ね」という個人的賞賛をいただけるレベルで
十分で、サッカーの国際試合の前に30秒も拍手
をもらうといった演出でいただくものでは、決
してないと、感じます。（よね??????）

皆さんは、いかがですか???





うれづつ順心じまればし
思ひま. よろしく御願いたしましう.

職員の皆様の働きっぷりには感心しました。

太良、鹿島は干潟も山も近くにあり、珍しい魚や
むつごろう、ちぼも獲れてみかんも美味しいです。
良い所だと思います。

介護老人保健施設 ふるさとの森

医師

吉村 隆宏

Profile

生年月日:1953 年 12 月 7 日

出身:佐賀県杵島郡白石町

福岡大学医学部卒業

専門:一般内科・婦人科

座右の銘:十人十色

学会報告書

1

第 120 回日本皮膚科学会総会（Web 開催での参加）

令和 3 年 6 月 14 日

ふきあげ納富病院

医師 新井 知降

神奈川県横浜市にて第 120 回日本皮膚科学会総会が令和 3 年 6 月 10 日（木）～6 月 13 日（日）の 4 日間開催されました。新型コロナウイルス感染症対策を万全した上で、現地開催＋Web 開催のハイブリット開催となりました。私は Web のみで参加しました。

Web で期間中 1 日 4 ～ 6 時間講演会を

聴講しました。専門的な内容なので詳細は割愛させて頂きます。

皮膚科医以外の方でも興味がありそうな話として少し紹介させていただきます。

●経皮感作による食物アレルギーについて
皮膚から体内にアレルゲン（アレルギーの原因）が入り、感作を起こすことによって食物アレルギーを発症する事があります。有名な例では小麦入りの石鹸を使用した方が小麦を食べると蕁麻疹などのアレルギー反応を起こすというものです。また、一見関係ないような物同士でも起こり得ます。中々興味深いです。

【経皮感作】・・・食物アレルギー

●クラゲ刺症↓納豆

●マダニ刺症

↓四つ足の動物の肉（牛肉・豚肉など）

↓カレイの卵・抗悪性腫瘍治療薬の一つ

のセツキシマブ

●猫のフケ↓加熱不十分の豚肉

●花粉

スギ・ヒノキ↓トマト

ブタクサ↓スイカ、メロン、キュウリ

ヨモギ

↓ニンジン、セロリ、トマト、キュウリ

シラカンバ

↓リンゴ、桃、セロリ、ピーナッツ、パプリカなど（加熱すれば症状は出ない）

未だに食物入りの化粧品が販売されているようですが、感作が成立し食物アレルギーを発症するリスクがあるのを覚悟の上でお使いください。（私は使いません。）

食物アレルギーではないですが、ファイザー社の新型コロナワクチンでアレルゲンの一つとしてポリエチレングリコール（PEG）が疑われています。PEG は化粧品などに含まれていることがあり、知らぬ間に経皮感作の成立した方が新型コロナワクチンを接種することでアレルギー症状を起こすと考えられています。

Training report

【1日目】

- 日常診療で知っておきたい
食物アレルギーの最新情報 2021
- ① 成人に持ち越した乳幼児期発症の食物アレルギーの特徴・診断
- ② 成人発症の食物アレルギーの特徴・診断・生活指導
- ③ 交差反応に基づく花粉・食物アレルギー症候群の特徴・診断・生活指導
- ④ 経皮感作による食物アレルギーの特徴・診断・生活指導
- これだけ変わったアトピー性皮膚炎の病態と治療
- ① ここまでわかったアトピー性皮膚炎における表皮バリア機能異常
- ② アトピー性皮膚炎の炎症を理解する
- ③ これだけ変わったアトピー性皮膚炎の病態と治療／外用療法について
- ④ アトピー性皮膚炎における全身療法薬物の発展

【2日目】

- 知っておきたい脱毛症の治療の病態・療
最前線
- ① 円形脱毛症の病態理解最前線
- ② 円形脱毛症治療の新知見
- ③ 先天性脱毛症の最新情報
- ④ 男性型 女性型脱毛症治療アップデート
- 【3日目】
- 新しい薬疹、注意すべき薬疹
- ① 免疫チェックポイント阻害剤薬による皮膚障害 Update
- ② EGFR 阻害剤による皮膚障害 Update
- ③ 新しい type-I 過敏症
- ④ ヒドロキシクロロキンによる薬疹
- マイクロバイオームと皮膚疾患
- ① マイクロバイオーム解析の最新の動向とその応用
- ② 皮膚細菌叢研究の皮膚疾患への応用
- ③ 皮膚真菌マイクロバイオームと皮膚炎菌叢、病原細菌クオラムセンシング

【4日目】

- 中毒疹について考える／大事な疾患を見逃さないために
- ① リンパ増殖異常症に伴う中毒疹と皮膚症状
- ② 感染症と中毒疹
- ③ 薬疹と中毒疹につき考える
- ④ 「中毒疹」から膠原病を見逃さない
- 化膿性汗腺炎診断の手引き 2020
- ① 化膿性汗腺炎とは？
- ② 化膿性汗腺炎の疫学
- ③ 化膿性汗腺炎の病態生理
- ④ 化膿性汗腺炎の治療 手術 vs 薬物療法の境界線



Q1 現在、当施設では以前と比べて認知症の症状がある利用者様のご利用が増加しており、重度化も進んでいる印象があります。当施設での認知症ケアの現状と課題について。

が私たちの弱点です。特に最前線でケアにあたる現場スタッフにはこのことを強く意識してもらいたいです。何かを始める前に、まずは弱点をしつかりと認識することから始めましょう。利用者やご家族は、私たちにより高いレベルでの認知症ケアを期待されているはずですが、ふるさとの森にはその「期待に応える責任」があります！

また、昨年からは続くCOVID-19では認知症利用者への感染対策が大きな課題となつています。認知症により安静が保てない利用者にの隔離やゾーニング等は困難を極めますし、行動予測の難しさから事前シミュレーションもなかなか機能しません。利用者とは職員のワクチン接種が進んだことで一定のリスクヘッジはできましたが、これでも万能ではありませんが、課題は残されたままです。

武藤 職員の認知症への理解を深めるための努力はしていますが、基本的な事は理解できても一人一人違う症状で、本

敬老祝賀会

例年ふるさとの森では利用者様ご家族をお招きして食事を開催しています。コロナ禍となった昨年、今年とそれが叶いませんでした。少しでも楽しい時を過ごしていただきたいとお弁当とおやつにお祝いの饅頭を用意しました。

通所の利用者様には百歳を迎えられる方、百一歳を迎えられた方がいらっしやいました。栄養管理部からお祝いのケーキを用意し一緒に写真を撮っていただきました。拙い技術で作ったケーキでしたが喜んでいただけたようです。

ケーキはその後、還暦を迎えた通所職員用に飾りを差し替え改めて写真撮影を行いました。



お品書き

- ・稲荷寿司
- ・赤飯
- ・ちらし寿司
- ・すまし汁
- ・肉団子
- ・魚のフライ
- ・南瓜の煮物
- ・五目玉子焼き 焼売
- ・金時豆
- ・七福なます
- ・生菓子



ハロウィンレシピ



< 材料 >

- ・市販のシュークリーム
- ・ホイップクリーム
- ・砂糖
- ・かぼちゃパウダー
- ・パンプキンシード
- ・チョコペン
- ・ビスケット
- ・マシュマロ

< 作り方 >

- ① ホイップクリームを泡立て砂糖、かぼちゃパウダーを混ぜる
- ② シュークリームに切れ目を入れ①を絞る
- ③ ビスケットにマシュマロをのせレンジ 600w10 秒ほどかける
- ④ ②③それぞれにチョコペンで顔を描きパンプキンシード等を飾る

< 材料 >

- ・ご飯
- ・バター
- ・塩コショウ
- ・卵
- ・お好みのトマトソース
- ・海苔

< 作り方 >

- ① 温かいご飯にバターを入れ、塩コショウをふりバターライスを作る
- ② 卵を溶きバターをひいたフライパンで薄焼き玉子を作る
- ③ 丸い方にご飯を詰め、上から押し固める
- ④ 平皿に③のご飯を乗せ玉子を被せる
- ⑤ 海苔を型抜きし顔を作る
- ⑥ 温めたトマトソースをかける



< 材料 >

- ・お好みのソーセージ
- ・パイシート
- ・海苔
- ・ケチャップ
- ・胡麻

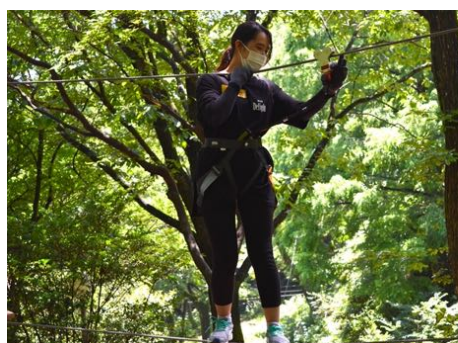
< 作り方 >

- ① パイシートを1cm程の幅に切る
- ② ソーセージにパイシートを巻きつける顔を描く部分を空けておく
- ③ オーブントースターで色がつくまで焼く
- ④ 海苔や胡麻で顔を作る





誠晴會新人研修in
フォレストアドベンチャー吉野ヶ里



【フォレストアドベンチャー研修プログラム】

令和3年7月14日（水）フォレストアドベンチャー吉野ヶ里で今年度の新人研修を開催しました。

今回は、チームワークの向上、新人職員の一体感・連帯感の醸成とそれによる親睦融和、組織人としてのあり方をテーマに研修を組み立てていただきました。

・PITCH（ピッチ）

自分を知り、自分を信じる。
仲間を知り、仲間を信じる。
知力と体力とチームワークで
森の課題を克服する。

P・・・Physical strength（体力）

I・・・Intelligence（知恵）

T・・・trust（信頼）

C・・・Cooperate（協力）

H・・・Help each other（助け合い）

研修の内容は、まず、お互いの名前を呼ぶためのキャッチボールから始まり、ランダムでチームを組み、与えられたアイテムと木でどのチームが一番高く高く木を組めるかを競いました。そして、最後に樹上での研修プログラムでした。高い樹の上で2人1組になり、片方が目隠しをした状態でもう片方が先導していくというものでした。

始まりは全員緊張しており、声が小さかったりぎこちない雰囲気でしたが、プログラムを行っていく

ちに、笑いが出たり、積極的に話し合うなどの姿が見られました。

最後の樹上のアスレチックを行うプログラムでは片方が目隠しをしてもう片方が扇動をしていくというものでした。足元が見えない分、細かい気遣いと指示が必要で一日のプログラムの集大成が求められました。

気温が高く途中で雨が降ってくるアクシデントがありましたでしたが全員が最後までやりきることができました。

今回のまとめを代表してふきあげ納富病院所属の田崎さんに、発表してもらいました。

「今回の研修プログラムを行い、患者さんの立場で出来る事、出来ない事を理解した上で適切な言葉で『伝える』事の大切さ。そして、仕事上で重要なチームでの連携の取り方、声のかけ方など医療や介護に通じる細かい気遣いとコミュニケーションを学びました。今回、学ばせてもらったことを今後に活かしていきたい。」

今回の新人研修は身体を動かすことはもちろん、職員同士のコミュニケーションのとり方から、患者さんとの接し方を学び今後の業務へ活かして行きたいと思えます。皆さんお疲れ様でした。



ForestAdventure Explorer

フォレストアドベンチャー研修プログラム

Physical strength (体力)

P

Help each other
(助け合い)

H

Intelligence
(知恵)

I

PITCH

自分を知り、自分を信じる。
仲間を知り、仲間を信じる。
知力と体力とチームワーク
で森の課題を克服します！

フォレストアドベンチャー
の研修は課題を解決する
大切なカギです。

Cooperate (協力)

C

Trust (信頼)

T



この研修で何が学べるか

メンバーやクラスの雰囲気があまり良くない
士気が上がらない
活発な意見が出ない

✓ チームワークを強くし。”**団結力**”
を養う必要があります。

声が小さく活動意欲に欠ける
コミュニケーションを積極的に取ろうとしない
行事に参加しない
自発的に意見を言わない

✓ 自ら考えて発言・行動する、
”**発信力**”を養う必要があります。

- ◆ 個々の意識が変わることで自ら気づき、チームワークがよくなります。
- ◆ 能動的な発言・行動ができるようになります。

● フォレストアドベンチャー・吉野ヶ里 (090-2722-2753・

〒842-0104 佐賀県神埼郡吉野ヶ里町三津2753-375 アドベンチャーバレーSAGA内

ホームページ
QRコード



NEW START 『わいわいクラブ&』 OPEN 2021.10.8(FRI)



子どもたちが「ただいま」と言って帰ってくる 暖かい家 それが「&」です。

アンドには、子どもたちが大安心でいられる場所、「安堵」
わいわいクラブや子どもたちがもっと発展する意味「それからand」
という2つの思いが込められています。

年齢も学校も違うけれど、みんなが1つの屋根で過ごせる空間を作ります。

完成見学会

in ふきあげ納富病院横

10月8日～随時受付中



www.bess.jp



リニューアル OPEN

in ふきあげ納富病院横

ワンダーデバイス

WONNDER DEVICE



1F 学習室



外観



ブレイズ株式会社
わいわいクラブ

new address

〒849-1311 佐賀県鹿島市高津原1883番地 3

☎080-4692-8181

☎0954-68-0246

ボカサマークリニック&セレクション

2021 IN 佐賀会場（ブリューコート）

今年で9回目となるボカサマークリニック&セレクションを鹿島市のブリューコートで7月22日～24日の3日間、開催した。昨年に引き続き、新型コロナウイルス対策を行なったの開催だったが長崎、福岡からと遠方からの応募もあり、78名に参加してもらった。

9回目の開催ということで多くの方々に認知され、鹿島市などの企業様方からの支援していただけるまでになった。そして、このクリニックを行うにあたって、開催する目的は4つある。

1つ目は、アルゼンチンで100年を超える歴史を持つ名門「ボカ・ジュニアーズ」の指導者を招聘し、日本の子供達が普段できないアルゼンチンのジュニア世代の選手が実際に行っているトレーニングを参加してくれた子供達に体験してもらうこと。

2つ目は、本物に触れて子供達が目を輝かせる瞬間や指導技術を貪欲に学ぼうとする姿を見ることができ、地域に根差したサッカー文化と競技スポーツとしてのサッカーの質的向上に貢献する。

3つ目は、日本の将来を担う子供達のスポーツ・サッカーへの興味・関心を高め、同年代との技術・プレーを体感する事で、成長と向上の高揚を図ると共に、各チーム相互の交流と親睦を深めること。

4つ目は、このクリニック参加者の中から優秀選手を選出し、ボカジュニアーズ育成部長のクリニックへ招聘し、近い将来南米でプレーする可能性を支援する事である。

ブレイズ株式会社は、この4つを目的とし鹿島市から日本サッカーに貢献していきたいと考える。

今回も東京に本拠地を置いているボカジャパンから指導者を2名招聘し指導をしてもらった。一名はパラグアイ出身のロランド、もう一名はボカジャパンディレクターのカルロス。

各カテゴリーでU-8、U-10、U-12の年代の子供達に向けての指導であった。もちろん使う言語は全てスペイン語である（練習内容の通訳はカルロスが行う）。技術練習だけでなく、そういった言葉がわからない環境での練習も選手達に体験してもらうのも狙いの一つである。





クリニック テーマ CLINIC THEMA

- CONDUCCIÓN (ドリブル)
- PASE Y CONTROL (パス&コントロール)
- REMATE (シュート)

今回のクリニックテーマは、ドリブル・パス&コントロール・シュートだった。この3つはサッカーを行う基本中の基本である。海外でも日本でも重要なことは変わらない事だと再度認識できた。しかし、一つの練習の中身に単純なものではなく、一つ一つ段階を踏んで最終的には全て実践に近い状態を作り出してのトレーニングだった。練習の内容を理解しやすく、最終的なゴール（テーマ）が明確で試合での実戦・応用もしやすいと感じた。

最終日はゲームを行い、3日間行なった成果や自分のプレーをコーチ陣にアピールしていた。その中で選手同士でゲーム内での連携、修正などで選手間で話をするなど、その日に集まった選手達だったが、しっ

り選手間での関係性が出来ており、コミュニケーションの能力の向上としてもいい場になったと思う。

選手達の練習に目が行きがちだったが一番の違いはコーチの練習の『雰囲気作りの上手さ』だと思う。

まず、練習に対しての熱量がとても高い。1日1時間半の練習を続けて、3セット、合計4時間半連続なのにどのカテゴリーの練習も全力で行なっていた。それによって練習場の雰囲気がとても締まっている様に感じ、緊張感があり活気のある雰囲気の練習であった。声のトーン・テンションの使い分け・ジェスチャー、これらも指導者の技術であり、スペイン語での練習であったが見てる側からも練習内容がなんとなく理解できた。これらの練習を見て「雰囲気作り」というのはコーチ陣の役割の一つでもあると学んだ。

初日に比べると最終日には、子供達は自分のプレーに自信を持ってプレーしている様にみえた。今回のこのBOCA CLINIC & SELECTIONで学んだ事を自チームに帰って還元し更に成長した姿を見せてくれたら嬉しい。今回のBOCA CLINIC & SELECTION佐賀会場ではU8・U10・U12から各9名の優秀選手が選出されました。選出させた選手は、ボカジュニアーズ育成部長が来日された際のクリニックに参加予定です。佐賀県の代表として頑張ってもらいたい。

（メインコーチ）

ROLANDO MONTIEL

ロランド・モンティエル / パラグアイ出身

選手略歴

1995～2001（パラグアイ/アスンシオン）

1995年 U-15 パラグアイ代表選出、同年の南米大会優勝。

2002～2005 CEFAR

アルゼンチン・パラグアイ指導者ライセンス保有。元パラグアイU-17代表

BOCA JUNIORS Jr年代育成部長ホセ・アキノノ氏の下で指導を学ぶ。

情熱的な指導と選手スカウトを得意とする指導者。

現BOCA JAPANジュニアユース総監督を務める。



（通訳）

CARLOS YAMAMOTO

カルロス 山本 / アルゼンチン、コバルト市出身

• FIFA PLAYERS AGENTライセンス保有

• BOCA JAPANディレクター

アルゼンチン指導者ライセンス保有。2003年BOCA JAPANを設立。

海外挑戦を目指す若手育成選手のサポート、BOCA サッカースクールの立上げ、

他、欧州、南米の数々の名門クラブとライセンスビジネスを展開した経歴を持つ。

BOCA JAPAN育成統括プロデューサーを務める。





2021年
10月号



この夏

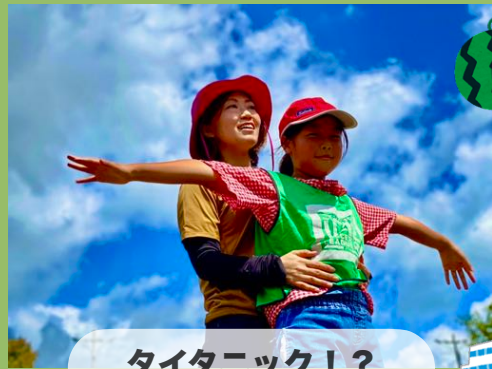
アフリカンペイントアーティストのSHOGENさんと
普段なら描くことのできない車や壁に
思いのままに絵を描くという経験をしました。
初めての経験で、熱中して描く子どもたち。

それを見ていた大人も
子どもに戻ったように恥じらいを捨てて描く姿もみられ、
会場 みんながペンキで染まって鮮やかでしたよ。
キャラバンも可愛くなっていますので
是非街中で探してみてください！

10月から思い出のつまったわいわいコンテナを卒業して、
新しい施設と『わいわいクラブ&』としてスタートします！

これまで以上に子どもたちが
多くの経験を積み安心して過ごせる場所となるように
スタッフ一同楽しみながら活動していきたいと思います！





タイタニック！？



割れるのかな～♪



カレー作ったよ！



どれにしよう😊



いい匂い🌸



早くゴーヤ食べたい！

WRSB



ガタは気持ちがいい！



願いごと書いた♪



『この夏の思い出』



なんとしても！🐟



昆虫採集



たこ焼き🐙



きまった👍



靴で釣ったの！？



文責：田崎貴大

新スタッフの ご紹介

新しく一緒に働いてもらう誠晴會スタッフの方たちのご紹介をします。
最初はわからない事が多いと思いますが、皆さんで助け合い、
これから一緒に頑張っていきましょう。よろしくお願いします!!



小嶋 脩友
(臨床検査技師)
ふきあげ納富病院
5月6日入職



山口 さえみ
(病棟看護補助)
ふきあげ納富病院
5月1日入職



田原 朋子
(病棟看護補助)
ふきあげ納富病院
5月1日入職



田崎 貴大
(総務)
ふきあげ納富病院
6月16日入職



北 敏明
(総務送迎)
ふきあげ納富病院
5月25日入職



松尾 由香
(外来補助)
ふきあげ納富病院
5月16日入職



森 朱美
(病棟看護師)
ふきあげ納富病院
8月2日入職



下田 健太
(臨床工学技士)
ふきあげ納富病院
7月2日入職



比嘉 和輝
(透析看護補助)
ふきあげ納富病院
6月16日入職



小池 勝紀
(総務部)
ふるさとの森
7月16日入職



宮原 知子
(支援相談員)
ふるさとの森
7月1日入職



原 光浩
(総務送迎)
ふきあげ納富病院
9月7日入職



SEISEIKAI TOPIC

～豪雨被害に対するボランティアについて～

ふるさとの森が災害派遣の提案を佐賀老健協会に打診したところEブロックの老健の職員さん15名ほど参加して頂きました。

2年前にも大町町を豪雨が襲いましたが、そのときの教訓を活かし対策はされていたそうです。しかし今回の豪雨時は1メートルほど病院、施設が浸水し、リハビリ室やデイルームなどに甚大な被害が出ていました。

自衛隊もすでに現地入りし支援をされていましたが、私たちは主にオムツや消毒などを保管する倉庫の清掃、居室の後片付け、浸水した荷物を運ぶ作業などを行いました。

1階はすべて浸水しており入所者の衣類や事務所のパソコンなどすべて使えない状態で、災害の恐ろしさを間近で感じました。半日ほどで作業は終了しましたが、一日も早い復旧、診療の再開をしてほしいと思います。

ふるさとの森もいつ災害で被害が出るかわかりませんが、防災意識をさらに高めてご利用者様の安心、安全に努めて参りたいと思います。

ご支援、ご協力頂いた災害派遣に参加して下さった皆様ありがとうございました。



第6回

光と色と風の フェスティバル

鹿島市吹上公園 (蟻尾山公園入口交差点より東)

10月30(土)、31(日) 10～16時

光と色と風のフェスタは楽しみながら
健康度アップに資するべく「健康と美」を
テーマに、地域で活動している者が協力し
開催しております。



主催：ブレイズ株式会社

協賛：医療法人誠晴會、(株)佐電工、(株)大洋建設、Befit、GLAD
(株)宮園電工、ニチバン(株)、ザバス/(株)明治、大塚製薬
なごみ薬局、未来応援ドリームプロジェクト賛同企業

【お問い合わせ】ブレイズ株式会社

〒849-1311 佐賀県鹿島市大字高津原537番地1

TEL:0954-68-0246 FAX:0954-62-6806

E-mail:med_sppt_blaze@yahoo.co.jp



HIKARITOIROTOHAZE